

『読書好日』

雲雀丘学園中高 図書委員日より
【第2号 2022/10/4】発行：図書委員会編集部

特集1 図書委員へのインタビュー



2022年度前期図書委員長の藤原華音さん、副委員長の藤田佳穂さん、書記の岡明日香さんの3人に話を聞きました。テーマは「これからの図書委員会」です。(聞き手：編集部長 恒松)

(恒松)	これから図書委員会が変わっていく中で、どんな仕事が必要になると思いますか？
(岡)	図書だよりの先生インタビューがとても気に入っているので、いつか先生インタビュー特集号が発行されたら嬉しいです！
(藤田)	それに、もっとクラスみんなに広めて行けるような仕組みがあったらいいな～。
(藤原)	高校生もだけど、中学生も発言しやすい環境をもっと工夫して作ってみたらさらに色々なアイデアがでてくるんじゃないかな。
(恒松)	後期図書委員の方へアドバイスをどうぞ！
(岡)	今年度から新たな活動していますが、まだまだ改善出来る点がたくさんあると思います。ぜひあなたの意見を図書委員の活動に取り入れてください！
(藤田)	まだ新しい仕組みになったばかりなので色々な企画にどんどんチャレンジして楽しい委員会にして欲しいです！
(藤原)	図書室が新しくなってそんなに経っていないので、快適さや良い部分がまだあまり伝わっていない気がします。なので、一新された魅力ある図書室をもっとアピールして欲しいです！
(全員)	これからも図書委員会への応援よろしくをお願いします！

特集2 先生へのインタビュー

みなさん、「先生へのインタビュー」への沢山のリクエストありがとうございました!! まだまだ募集しているので、ぜひ図書室またはクラスの図書委員まで! 今回は今年度から教頭先生に就任された道北先生と、いつも図書室で見守ってくださっている南竹先生のお二人の先生にインタビューさせていただきました。(聞き手：高2恒松・高2岡)

道北秀寿 先生

Q.先生が学生時代に出会った、今でも印象に残っている本は何ですか？

A.『理工教育を問う-テクノ立国が危うい』という本。大学受験の年に先生が書店で偶然出会った本です。「カブトムシが死んでしまったから電池を交換したい」という男の子の発言が、今でも印象に残っているんだよね。この本が教育について考えるきっかけになったかなあ。

Q.中高生の私たちにおすすめしたい本はありますか？

A.『土屋の「目指せ合格」』。代々木ゼミナールの国語の講師をされていて、先生が大学受験の時に世話になった土屋先生が執筆されました。「心の参考書」だと土屋先生は言っておられて、本当に肌身離さずこの本を持っていました。作中の君原健二さんのエピソードに、とても感化されたんだけど、その後偶然学校で君原健二さんが講演会をしてくださって、サインをもらいに校長室まで行ったんだ(笑)

Q.どんな学生時代を過ごしていましたか？

A.実は単位科目間違えて大学留年しちゃったんですよ(笑)。一年間で一科目しかとらなくてよかったので、バイトや経営学などいろんなものに手を出ことができました。いろんなことを学んだことによって視野が広がりました。一生懸命ぶちあたった先で自分が見えてきます。そして家族は自分のことを自分以上に知っているのだから、自分を見つめ直すためにも家族を大切にしてほしいです。

南竹洋子 先生

Q.先生が学生時代に出会った、今でも印象に残っている本は何ですか？

A.ええ～……。吉本ばななの『キッチン』かなあ。ゆるい口語文体で、こんなのもありなんだって衝撃を受けました!読みやすく、読んでいるとぎゅーって気持ちになる。人を好きになって居ても立っても居られないって、こういう気持ちなんだなって。

Q.中高生の私たちにおすすめしたい本はありますか？

A.名作と言われるものを読んでほしい!10代のうちに読まないときっともう読まないから。私自身、赤毛のアンや若草物語とかを小説で読んだことはあったけれど、夏目漱石や太宰治の本を読んだのは大人になってからで…。よし!読むぞ!って気持ちを作ってから読んだけど、10代のうちに読んでいたらそんなにハードルが高くなかったかもしれない(笑)。

Q.どんな学生時代を過ごしましたか？

A.中学時代は部活もしていたしそれなりに楽しかったけど、今思うとずっと眠っているような感じでした。高校時代はその反動で、部活に洋服…と趣味に没頭していたなー。司書を目指したのは本と図書館が好きだったからです。

道北先生、南竹先生、ありがとうございました。今後はどの先生が登場するか、お楽しみに!

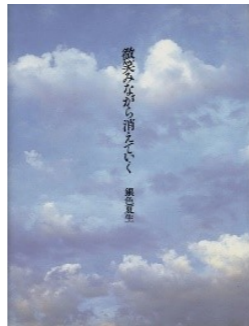


図書委員 編集部員による「推しの一行!!」

編集部員おすすめの一冊から、お気に入り=推し!!の一行を選んでもらいました。

『約束しなくても明日会えることがどんなにいいことか』
(銀色夏生 著「微笑みながら消えていく」より)

コロナ禍で、家族や学校の友達に毎日会えるのが当たり前ではなくなったこと。別々の道に進んだ友達とは昔のように毎日会うことはなくなったこと。今一緒にいる人との時間を大切にしたいと思いました。
(高2A 前田星摘美)



『ダメだと思っても、信じる心を共有することで、限界を越える時がある』

(鎌田洋 著「ディズニー掃除の神様が教えてくれたこと」より)

何事も限界を決めずに取り組むことは難しいことだけど、自分を信じて行動することで開ける道もあるのだらうと思わせてくれた本です。
(高1H 村瀬由茉)



『幸せになれなくてもいいのだ。』

(凧良ゆう 著「汝、星のごとく」より)

世間一般に言われている幸せが、本当に幸せとは限らない。人生は自分で割り上げていくもので、他者と比較する必要なんてない。だからわたしは、自分なりの幸せの形を持っていたいと思いました。(中3B 永松みなみ)

『「歓喜の国」、そして「心ときめく国」。』

(有川浩 著「レインツリーの国」より)

「歓喜の国」、「心ときめく国」そんな国が世界にあるのでしょうか？どこにだって嫌なことや嫌いなものはあります。けれど、そんなものもすべてまとめて「歓喜の国」と呼ぶことができるのかもしれないと思いました。(中3B 熊澤栞)



『みんなと一緒になんなんだろう』

(しっぽタヌキ 著「あやしパン屋さん」より)

他人と違った意見を言えずに、周りに流されてしまうことが多い生活の中で、みんなと一緒になんなんだろうと考えたことはありませんか？みんなと同じであることが良いことなのかについて考えさせてくれる一行でした。(高1E 松田あさひ)



「お客さんのが一番喜ぶのは、『期待以上だった時』」

(水野敬也 著「夢をかなえるゾウ」より)

今までは期待されていたところまでしかしていなかったけど、本当の喜びは期待していた結果よりも上になったときなので、期待されていること以上を目標にしたいと思いました。(中2D 出口大翔)

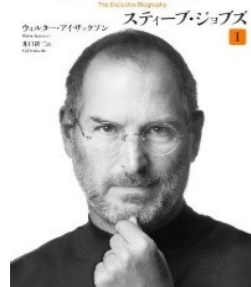
『いつもどおりの毎日はすばらしい』

(定政敬子,北谷彩夏 著「マンガでわかる! 10代に伝えたい名言集」より)

オーストラリアの動物学者のコンラート・ローレンツの言葉で、いつもの何気ない日常も素晴らしく毎日を大切に過ごしていくことが大切だと思いました。(中2A 小寺智仁)



Steve Jobs



『あなたの時間は限られている。だから、誰かの人生を生きて無駄にしてはいけない。』

(ウォルター・アイザックソン 著「Steve Jobs」より)

人に合わせまくって生きるのではなく、少しでも自分に正直に生きる事が大切なかなあと思える言葉でした。(中2A 酒井嶺欧)

『人生は、きわめてシンプルである。』

(小倉広 著「アルフレッド・アドラー 人生に革命が起きる100の言葉」より)

人生がうまくいかない時、「人生が辛い、苦しい」のではなく、あなたが人生を難しくしているだけ。過去のトラウマを引きずるのではなく、未来を変える努力をするのが大事なのだと思いました。(中2D 八杉皆衣)



『世の中が不公平なのは当たり前だよ。みんなに平等に不公平』

(辻村深月 著「ツナグ」より)

この一行を読んで、私は特に「みんな平等に不公平」という文が印象に残りました。みんな苦しいと思っていることは必ずあって、それでも助け合って生きているのではないかと考えました。(高2B 勝田愛美)